



楓の森アップデート3



合志市立合志楓の森小学校
学校だより 第12号
令和7年10月28日(火)
文責:校長 佐藤 政臣

○校訓「志高く 道を拓く」 ○学校教育目標「夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成」

読書週間(10/27～) ～読書の秋です～

10月27日付け熊日新聞、「『読書ゼロ』半数を超す」というショッキングな見出しが目にとまりました。ベネッセコーポレーションが2024年に小中高生や保護者に尋ねたところ、読書をしない(0分)との回答が52.7%で、2015年調査時の34.3%から約1.5倍に増えたということです。

調査は、ベネッセ教育総合研究所と東大社会科学研究所の共同実施で、無作為に抽出した同一の親子を対象に15年から継続して調べています。2024年の調査では、読書をしないとした割合は、

小1～小3で33.6%、小4～小6で47.7%
中学生で59.8%、高校生で69.8%

という結果になりました。

一方、1日のスマートフォン使用時間は、

小4～小6で33.4分、中学生で95.7分
高校生で138.3分

となり、約22分から52分増えました。

今回の調査では、小1～3年生で、すでに読書をしないと答えた割合が33.6%と全体の約3分の1を占め、学年と共にその比率が上がる結果となりました。これまでの様々な調査では、「読書が学力と関連している」ことが示されています。まとまった文章を読むことは、思考力を培い、想像力を育み、様々な未知の世界への窓を開く契機になります。また、スマホ時間と読書時間が反比例の関係にあることも今回の調査で示されました。

学校では、全校読書タイムや国語科等で読書の時間を設定しています。ご家庭でも読書のための時間を作ってみてはいかがでしょうか。

昨年度も学校だよりで掲載しましたが、なぜ読書が推奨されるのか、読書で得られる代表的な効果について以下に示します。

読書で得られる代表的な効果

①文章力の向上

本の文章を読んでいく中で、上手な言い回しや普段自分が使わないような文章に触れることができるため自然に文章能力があがります。

②語彙が増える

読書により、普段の会話にでてこない難しい言葉や表現豊かな日本語と出合うことで、知識が身につくと同時に語彙力が上がります。

③教養や知識が身につく

読書をすることで、知らなかった知識や教養を芋づる式に身に付けることができます。読書により、生き方が変わる可能性があります。

④想像力が豊かになる

読書は、文章や単語から本の情景や背景、登場人物の感情や思考を想像することになり、想像力が豊かになります。

⑤アイデアが得られる

自分だけの力では考えられないアイデアなどが本の中にはたくさん詰まっており、生活や人生の中で、大きなヒントになることがあります。

⑥色々な話題を話せる

読書をすることで得た多様な知識は、友達との会話の話題の一つとして取り上げることができるようになります。

⑦ストレス解消になる

読書にはストレス解消効果もあるそうです。短い時間の読書でもリラックス効果を得ることができるといわれています。

秋の夜長、本に触れる時間をつくってみてはいかがでしょうか。

参考文献：熊本日日新聞、PRTIMES ベネッセコーポレーション、学研オンエア

各種学力調査は、単に知識を問うだけでなく、知識をどう活用するかという「思考力・判断力・表現力等」も評価対象として設計されています。これは、学習指導要領で示された「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」という学力の三要素を一体的に育成するという考え方に基いています。

そのようなことから学力調査では、複数の資料を見比べて考えたり、長い文章を速読して要点をまとめたりするなどして、制限時間内に解くことが求められます。ですから、普段から長文を読むことに慣れていないと解けないのです。

次のグラフは、私が調査したもので「熊本県学力調査の得点」と「読書量」の相関関係を表したグラフです。国語、算数ともに「高い相関関係がある」ことがわかりました。このことから、読書が学力に及ぼす影響がかなりあると言えます。

